



## 男女共同参画計画策定

# プロジェクトTEAM

～人として生きやすい社会を目指して～

今号では、現在、市で取り組んでいる『男女共同参画計画策定』についてご紹介します。

### ★プロジェクトチームがあること知ってますか？

市では、よりよい男女共同参画社会を目指すための計画を策定しています。アドバイザーとして新潟女子短期大学の石川伊織助教授を迎え、公募などで選ばれた8人の市民委員と、市の職員12人のプロジェクトチームで連携を図りながら調査・研究を行い、平成16年3月を目標に計画書を作成する予定です。

### ★プロジェクトチームの活動内容は？

平成14年8月の第1回会議から現在まで9回の会議が開催されています。前半は、昨年11月に実施した市民意識調査の項目設定や内容検討を行いました。市民の立場から「知りたいこと、聞きたいこと」を内容に盛り込むため、市民委員の皆さんにも項目設定の段階から参加していただきました。その結果、アンケートでは白根市の方向性や課題がはっきりと現れ、計画策定の柱を決めるものとなりました。

### ★そこから見えてくるものは？

調査結果集計後は、結果から読み取れる白根市の方向性や、重点的に取り組むべき課題について議論を重ねています。「制度や慣行が邪魔をし、固定化された『男性像』や『女性像』がつくられているのではないか」「『男だから』『女だから』ではなく『人』として生きやすい社会、生き方を否定しない社会を目指すべき」「人としていろいろな人の生き方や考え方を学べる場が必要。また世代を超えた交流の場も必要」などや、子育て、介護、ドメスティック・バイオレンスなどについてもさまざまな意見が出されています。

今後は、市民委員会で議論された内容や重点的に取り組むべき課題をもとに、プロジェクトチームで素案を作成し、さらに議論を深めていきます。



「おしゃべりさん」は白根学習館ホームページでもご覧いただけます  
<http://pc2.gakushyukan-shirone-unet.ocn.ne.jp>



おなかに、ばんそうこうのマークがオストメイトを表しています

このほど白根学習館2階のファミリートイレ1カ所が、オストメイト

## 覚えてください、このマーク

### オストメイト対応トイレを設置

対応トイレと兼用になりました。オストメイトとは、大腸やぼうこうなどの病気の治療のため、手術により人工肛門・人工ぼうこうを利用している人のことです。オストメイトにとっての問題は、外出時に排泄物処理ができる場所がほとんどないことです。このため外出を控えてしまします。全国の設置状況は、公共施設や公共交通機関等を中心に約三百カ所で、白根市近郊にはありません。市では、これを学習館に設置することで、オストメイトの積極的な社会参加を推進したいと考えています。

## 環境美化は一人ひとりの意識から

今年で九回目となる「信濃川クリーン作戦」が、七月二十日に信濃川



### 信濃川クリーン作戦

沿線および中之口川沿線で行われました。

この日は悪天候にもかかわらず、それぞれの場所で、地元の人々など大勢の人が参加し、約二時間にわたってごみを拾いました。鷺ノ木水門周辺の参加者は「毎年実施しているせいか、徐々にごみが少なくなってきた。釣り人のマナーも良くなっている」と話します。しかし、まだまだ後を絶たない不法投棄。今年是一般ごみ約二トンのほか、タイヤや自転車、テレビなどの産業廃棄物も多数回収しました。

# 第34回県中学校総合体育大会 各種目で優勝した精鋭たちをご紹介します!!

7月28日、29日の2日間、第38回県中学校総合体育大会が県内各地で開催され、白根第一中学校はソフトテニス男子団体・男子個人、柔道個人戦一階級、卓球男子団体で優勝。白根北中学校は陸上の女子走り幅跳びで優勝を飾りました。その優勝した選手たちの喜びの声を紹介します。

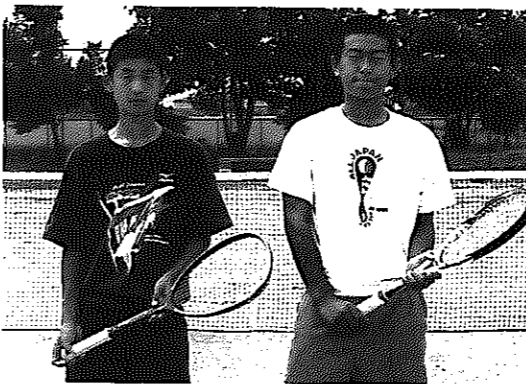


卓球男子団体

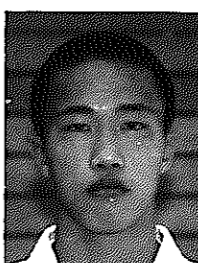


ソフトテニス男子団体

白根第一中学校卓球部は昨年に続き、今年も優勝を果たしました。大会には(写真右から)伊勢亀直矢君、尾竹雅人君、佐藤慧君、大矢和徳君、岡田貴仁君、小林歩君、山岸郷君のチームメンバーで挑みました。メンバーは「昨年よりいろいろな面で余裕があった」と声をそろえ、優勝できたことを喜んでいました。また顧問の西山先生は「子どもたちはよく頑張りました。すごいことだと思っています。保護者や地域の皆さんのバックアップも十分あり、大変感謝しています」と感想を話していました。



ソフトテニス男子個人



柔道

小川智基君  
 (白根第一中学校2年)  
 男子個人55キ口級



陸上

外川朋美さん  
 (白根北中学校3年)  
 女子走り幅跳び

「スマッシュは誰にも止められない」と話す長谷川貴大君(写真右)と「相手との打ち合いには自信あり」と話す田中祐太君(写真左)がペアを組んだのは一年前。お互いのプレイングを知り尽くしている二人は、これまでもさまざまな大会で好成績を収めてきました。長谷川君は「練習の準備をしてくれたり、毎日練習を見てくれたりした先生のおかげで優勝できました」と感謝の気持ちでいっぱい。田中君は「来年、北信越大会でも優勝できるように頑張りたいです」と次の目標へと一歩を踏み出しました。

小川君は「二回戦が優勝候補と、準決勝が地区大会で負けている相手との対戦で、大会の大きな山場でしたが、一本勝ちできたのでうれしかったです」と話してくれました。今後のさらなる活躍が期待されます。

外川さんはこの優勝について「二位との差がほんのわずかで、終わった時ホッとしました」と話し、また「高校ではインターハイを目指して頑張りたいです」と次の目標に向かって決意を新たにっていました。